

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
学習指導	<p>中長期重点取組の1 「生徒の学力向上」</p> <p>◎高い目標（9割が国公立を志望）を目指して、粘り強く努力する姿勢を大切に指導をします。（3学年）</p> <p>【取り組み状況の指標】</p> <p>生徒の粘り強く努力する姿勢の障害となる不安や焦りを解消するために、年間4回以上の面談の実施と、20号以上の学年便りの発行に取り組みます。</p> <p>【達成状況の指標】</p> <p>生徒たちの多くが志望している国公立大学の合格数が、普通科・理数科卒業生数の4割以上の達成を目指します。</p>	<p>【達成状況・評価結果】</p> <p>国公立大の合格状況が確定するのは3月末なので、センター試験の受験結果という中間報告的なものに替えたい。</p> <p>センターの自己採点が600点以上の人数が123人で、昨年度の133人には及ばないものの、県下では3番目の人数であり、一クラス多い一昨年の102人を大幅に上回っている。受験人数も、最初に出願した315名全員受験したことも評価できる。とくに後者の、生徒たちは最後まで粘り強く努力することができたことが、国公立大の合格数以上の意味を持っていると考える。</p>	<p>【具体的取組に関する成果や課題】</p> <p>学年通信(最終的には29号)、学年集会、面談など、それぞれの狙いを明確にし、効果的に行うことをめざしてやってきた。そして、上記の達成状況や評価結果から十分その成果をあげることができたと考える。</p> <p>一方で3年次からは「名大チャレサポ」の実施により、名大20名合格という目標を年度途中で建てたが、出願時になって弱気になってしまい、他大学に変更した生徒が多かったのが残念である。より高い目標を維持できるような集団にするためにはもう少し早くからの先頭集団の指導が必要であったというのが反省点である。</p>
	<p>中長期重点目標の4 「社会の変化に対応した教育活動」</p> <p>◎生徒間の対話を深め、気づきが得られるような「総合的な学習の時間」の計画を考えることで生徒の持つ思考力・発信力をより高め、協調性とリーダーシップを兼ね備えた状態を目指します。（教務）</p> <p>【取り組み状況の指標】</p> <p>1年生はオープンキャンパスを利用した自主活動などを、2年生は修学旅行での班別行動をつかった自主活動などを、3年生は校外研修会を使った自主活動などを行います。また、対話と気づきが大切であることを訴える講演会を実施します。</p>	<p>【達成状況・評価結果】</p> <p>・対話と気づきを大切に各学年の取組はすべて予定通り行った。校外研修ではチームで写真を撮ってくる取組も継続して行い、生徒の取組も上々であった。</p> <p>卒業生によるパネルディスカッションは3月に行う予定である。</p> <p>・達成の指標としては、「はい」を選択する生徒の割合が、8割を超えることはできなかった。</p> <p>23年度 36%、24年度 68%、25年度 73%、26年度 75%と徐々にではあるが、上昇傾向で</p>	<p>【具体的取組に関する成果や課題】</p> <p>・個々の取組においては、生徒たちも積極的に楽しそうに参加してくれていた。</p> <p>・達成状況の指標から、数値は上昇してきたものの、目標の80%にはまだ届いていないことなどから、質の向上・目的の明確化を図っていきたい。</p> <p>・特に、1年次に行う自主活動については、生徒の進路選択の一助になるとともに、グループディスカッション、パネルディスカッションという生徒の言語活動を伴う内容なので時間の確保も含めて取組を深化させたい。</p>

	<p>【達成状況の指標】</p> <p>「総合的な学習の時間」を振り返った生徒アンケートの中で、「この授業を通じて自身の成長が図られましたか」の項目で「はい」を選択する生徒が8割を超えることを目標とします。</p> <p><定時制></p> <p>中長期重点取組の1 「生徒の学力向上」</p> <p>【取組状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年において国語・数学・英語の3教科で習熟度に応じた特別授業を実施し、基礎学力の向上を図ります。 <p>【達成状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒満足度80%を目指します。 	<p>ある。</p> <p>【達成状況・評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年生において3教科で実施。 ・生徒の満足度は平均して77%。 ・例年より満足度がやや低いが、一部、大きく満足度が低い教科、学年があり、来年度に向けて、生徒の意欲を引き出す方法について改善が必要である。 ・質問しやすい等の意見が多数である。 	<p>【具体的取組に関する成果や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3展開しているが、学力のばらつきが大きくさらに細やかな対応が必要である。 ・基礎学力を高める取り組みに対して、意欲を失う生徒も見られるため、教材の工夫についてより一層の取組が必要である。
<p>生活指導・ 人権教育</p>	<p>中長期重点取組の3 「生徒の心と体の健全な育成」</p> <p>◎生徒が小中学校で学習した人権に関する知識を、自分自身の生き方になぞらえて考えられるよう指導します。（人権教育）</p> <p>【取り組み状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権便りを発行し、生徒の日常に生じる内容を取り上げ、人権推進教育を身近に感じられるように促します。 ・人権講演会を企画・実施し、差別の現況や困難を知り、生徒自身の人生に結び付けて考えさせ、人権に対する意識を高めます。 ・人権LHRを企画・実施し、生徒が主体的に話し、相手を受容することを体験するよう、指導します。 <p>【達成状況の指標】</p>	<p>【達成状況・評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権講演会及び、人権LHRのアンケートにおいて、生徒から批判的な内容の感想は本当に極僅かで、内容としては特に問題はなかったと言える。また、感想の中には、この取り組みを行う事ができて良かった、人権について今後深く考えるきっかけになったなどの感想もあった。 ・職員からのご意見も、特に問題になるような内容もなく、肯定的なご感想を頂いた。 ・公開人権LHRにおいては、外部の方のご意見を聴かせて頂いたところ ○内容としては、流れ等凄く良かった。 ○生徒の取り組みも非常に素晴らしい。 	<p>【具体的取組に関する成果や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の現状や雰囲気、問題などを担任の先生をはじめ、様々な職員のご意見を事前に集約し、企画に活かせるようにすると、今の桑名高校に合った内容の講演会やLHRが展開できるので、委員会を通じ、もっと発信していけばよかった。 ・生徒参加型の人権LHRだったためか、楽しかったなどの感想が多かった。 ・いじめや差別問題など、悩んでいる生徒がいるかもしれないので、内容等で心に傷を負う恐れがあった。その点について、もっと配慮するべきであった。 ・ルシル通信を、計画通り5号まで配布することができそうである。内容等考えるために、色々調べ勉強になった。

	<p>人権講演会・人権 LHR 後の感想アンケート記入において、肯定的な意見・感想などが8割を超えることを目指します。</p> <p><定時制> 中長期重点目標の4 「社会の変化に対応した教育活動」 【取組状況の指標】 ・生徒の「生きる力」醸成のために防災・環境・安全・健康・人権等に関する総合学習を年間35時間以上実施します。 【達成状況の指標】 ・生徒満足度について4段階でA、B合わせて90%以上を目指します。</p>	<p>●ティームティーチングの行い方については、今後改善していく必要あり。 以上のご意見等を頂いた。</p> <p>【達成状況・評価結果】 ・年度末までに26回、36時間実施する予定である。 ・生徒満足度については1/30現在、97%である。</p>	<p>こちらの意図やねらい、また生徒の率直な感想などを伝える事ができた。</p> <p>【具体的取組に関する成果や課題】 ・今年度はいのちの学習でAEDの取扱いについて体験したり、献血について学ぶなど新しい取組をすることができた。 ・例年「総合的な学習の時間」については満足度が高く、生徒の出席率も良い。</p>
<p>進路指導</p>	<p>中長期重点目標の2 「生徒の進路希望の実現」 ◎キャリアデザインを通じたコース選択や志望校の決定をし、第1志望校の合格を実現します。 (進路指導) 【取り組み状況の指標】 校内大学説明会、進路講演会のねらいを明らかにし、内容の充実を図ります。 3学年普通科・理数科の全員が4月の第1志望校の志望理由書を完成します。 難関大の中でも希望者が多い名古屋大学の入試対策講座を新規実施します。 【達成状況の指標】 説明会、講演会の事後アンケート結果において全項目3点以上(4点満点)</p>	<p>【達成状況・評価結果】 ・1年生向けは、三重大学説明会を文理選択に向けて10月に実施した。人文学部・教育学部・工学部・生物資源学部・医学部医学科・医学部看護学科の6つの分科会に普通科・理数科生徒全員が参加した。 ・2、3年生向けは、名古屋大学の経済学部・工学部・農学部の説明会を7月の2日間で実施した。参加人数はそれぞれ26名、72名、27名であった。(一部1年生も参加) ・終了後に、①大学学部について理解できたか、②大学学部について関心が高まったか、③自らの進路を考えるきっかけになったか、の3項目につ</p>	<p>【具体的取組に関する成果や課題】 ・現在の形で2年目の実施となった大学説明会については、全体として満足度が向上したが、2、3年生向けで昨年度より参加人数がやや減った。2年続けて参加する生徒にとっても魅力的な内容にしていきたい。 ・進路講演会は昨年度から「出口指導からキャリア教育へ」というテーマで取り組んでおり、次年度以降も引き続きこの視点で講師の依頼をしていきたい。 ・名大対策として新たに「名古屋大学チャレンジサポート(名大チャレサポ)」を立ち上げ、約50名の参加があった。教員の教科指導・進路指導の向上にもつながったと思う。例年と比べて、秋以降の名大模試の受験数が増えるなどの成果があったが、センター試験を終えて合格可能性が</p>

<p>国公立大学現役合格者数が、普通科・理数科卒業生数の4割以上 名古屋大学現役合格者数が15名以上 3年4月の第1志望校に現役で合格した生徒が、普通科・理数科卒業生数の2割以上</p> <p>◎看護師国家試験全員合格を目標とし、思考力や判断力を養うとともに、自主的、主体的な学習習慣を確立し、学力の向上・定着を図る。(衛生看護科)</p> <p>【取り組み状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に取り組む姿勢を育てるため、課題学習の工夫・改善を図り、課題提出を徹底させます。 ・学習の具体的な目標を持たせるため、各テストを計画的に実施し、その結果を踏まえた生徒個々に応じた個別指導を行います。 ・専門領域の充実と、職業観育成のために外部講師を招いてキャリア教育の充実を図ります。 <p>【達成状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の充実を図り、また、期日までに提出できる生徒が100%を目指します。 ・学習状況調査において、日々の学習時間「1時間以上」と70%以上の生徒が回答することを目指します。 ・国家試験合格率100%を目指します。 	<p>いて1,2,3,4の4段階評価でアンケートを行った。結果は平均で以下の通り。 名大・経 ①3.3②3.5③3.6,工 ①3.1②3.4③3.2,農 ①3.4②3.3③3.3 三重・人文 ①3.3②3.4③3.3,教育 ①3.3②3.5③3.4,工 ①3.2②3.4③3.3,生資 ①3.4②3.4③3.5,医 ①3.6②3.7③3.6,看護 ①3.5②3.7③3.7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会は3月のため、年度末に評価を行う。 ・国公立大、名大、第一志望校への現役合格者の達成状況は年度末に評価を行う。 <p>【達成状況・評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の学習が前期までに比較し、徐々に上がってきている。 ・1単元ごとの課題提出及び小テストを実施し、生徒の習熟度を確認しながら授業を実施 ・課題の提出率は1回目で約90%、2回目で95%、3回目で100%提出 	<p>十分あるのに出願まで至らなかった生徒も何人かおり課題を残した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合格数・合格率を指標として挙げているが、次年度以降は出願数を目標に加えたい。合否結果がすべてではなく、生徒がそれぞれの希望や目標に向けて最後まで力をのばしチャレンジできたかを大切にしたいからである。 <p>【具体的取組に関する成果や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題提出に関して、内容的に不十分なものに対しては再度提出とし、再々という状態でもあったが、全員クリアしている。 ・災害看護、救命、不妊治療、癌看護等、専門職の講師を招き、幅広い知識の習得、及び目指す職業観の確立にも役立った。 ・専攻科に関しては、外部講師による国試ガイダンスを2回実施し、国試合格に向けて学習方法の見直し等、強い意識づけができた。 <p>○課題</p> <p>今後も、自分の進路に向けて継続的に自主的に取り組む姿勢を身につける。また、日々の学習に取り組む姿勢、習熟度を常に意識し、学習状況が形骸化しないように分析し、指導にあたる必用がある。</p>
--	--	---

	<p><定時制> 中長期重点目標の2 「生徒の進路希望の実現」 【取組状況の指標】 ・生徒の実態に応じた進路指導を実施し、主体的に進路を選択できる力を身に付けさせます。 【達成状況の指標】 ・生徒の有職率80%を目指します。</p>	<p>【達成状況・評価結果】 ・2回のキャリア教育を実施した。 第1回：「働くこととは」と題した仕事をすすめるうえでの大切なことについての講話 第2回：職業別体験授業の実施 ・生徒の有職率は1月末現在で82%となっている。</p>	<p>【具体的取組に関する成果や課題】 ・外国人生徒をはじめ多様な生徒が在籍しているため、修学就労支援員やハローワークの助けも借りながら一層効果的なキャリア教育の充実に努めたい。 ・様々な状況の生徒が増えてきているが、今年度は目標の有職率80%を超えることができた。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学校運営</p>	<p>中長期重点取組の5 「働きやすい職場環境」 ◎生徒が生き生き学校生活を送れるように、また教員が生徒とかかわる時間を十分確保できるように、教員間の連携を図り、業務や会議などの精選や効率化に取り組みます。（総務） 【取り組み状況の指標】 ・企画委員会などを通して分掌間の連携を図ります。 ・朝の打ち合わせを簡素化できるように取り組みます。 ・同僚と相談しながら仕事を進めていける職場づくりに取り組みます。 【達成状況の指標】 職員満足度調査の人間関係の項目学校全体として、 ①自由に意見を言えるような雰囲気はありますか。 ②職員間の対話は、活発に行われていますか。 ③同僚と相談しながら仕事を進めていく体制はできていますか。 以上の数値3.0以上を目指します。</p>	<p>【達成状況・評価結果】 職員満足度調査結果より ①自由に意見を言えるような雰囲気はありますか。→数値2.8（昨年2.8） ②職員間の対話は活発に行われていますか。→数値2.9（昨年2.8） ③同僚と相談しながら仕事を進めていく体制が出来ていますか。→数値3.1（昨年3.1） 年々数値は上がっているが、①②については目標値に達しなかった。</p>	<p>【具体的取組に関する成果や課題】 メールや電子掲示板等で連絡が済まされることが多々あるため、まだまだ直接対話する機会が不足しているのが現状である。一方、会議の時間が長時間になることや資料作成等の事務処理についても改善の必要がある。今後も業務や会議などの精選や効率化に取り組みます。</p>

(2)組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none">・学習指導、進路指導に組織的に取り組んでいる。・文武両道を目指した指導に取り組んでいる。
弱み	<ul style="list-style-type: none">・学習指導、進路指導以外の指導、特に生活指導に対する組織的な取り組みが弱い。・地域との連携が弱い。・事業改善について、組織的な取り組みの強化が望まれる。

(3)学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
＜実施回数＞ 2回	
実施内容	<p>①第1回 平成26年6月18日(水)</p> <p>学校関係者評価委員は5名中4名が出席。校長挨拶に続き、学校関係者評価委員長を決定した。本年度の学校経営の改革方針について、校長より説明した。その後、進路指導部、総務部、教務部、生徒指導部より現状報告を行った。また、人権教育担当より、人権教育指針計画ならびに人権カリキュラムについて説明を行った。更に、定時制と衛生看護科の状況について教頭より報告を行った。その後、教育活動全般について協議をおこなった。</p> <p>②第2回 平成27年2月18日(水)</p> <p>学校関係者評価委員は5名中4名が出席。PTA役員の方にも出席していただき、合同会議の形式で実施した。教務部、進路指導部、生徒指導部、総務部、人権教育担当より、年間反省報告を含めて現状報告を行った。また、定時制と衛生看護科に関して教頭より報告を行った。更に、学校自己評価について説明を行った。その後、学校関係者評価委員やPTA役員より、学校の状況や自己評価について、意見等を伺った。</p>

(4)学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none">・生徒の目標の高さ、勉強量に感心するが、勉強以外でも頑張っている姿が理解できた。人格教育が大事であると感じる。・社会では人間性が大事だと思う。桑名高校を卒業して良かったと、大人になってから思えるような学校教育に取り組んでいただきたい。・多面的な取組が重要である。「何のために大学に行くのか」を伝えることが大事である。・地域に関わっている生徒もいるので、そういう面についても評価をしてあげてほしい。

(5)組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組

- ・生活指導に対する組織的な取り組みが弱いということを職員が認識し、生徒の心と体の健全な育成に取り組む。特に、挨拶の励行を重点的に取り組む。
- ・キャリア教育の体系的な指導計画の構築を図る。
- ・地域との連携強化、情報の共有化を今以上に進める。
- ・引き続き、授業改善の取り組みを進め、組織的に授業改善、授業研究を進めていく体制を整える。